

【連載】

## 老健仕事人 送迎ドライバー

# 安全で効率的で快適な 通所送迎をめざして

別所慎平 [べっしょ・しんべい]

介護老人保健施設仁風荘  
通所リハビリテーションセンター仁風荘（鳥取県）  
介護福祉士



### はじめに

私が勤務する介護老人保健施設仁風荘は鳥取県西部の米子市に1989年に設立されました。米子市の人口は約14万5千人で、近年は減少傾向にあります。ご多分に漏れず65歳以上の高齢者数は2003年の2万8千人から2020年には4万2,700人と約1.5倍に増加しており、私たち介護職の必要性は一層高まっている状況です。

私は2010年から当施設に勤務しており、当初から送迎業務を中心に携わっております。本稿では、これまでの14年間にわたる送迎業務において何が大切なのかを私なりに綴っていこうと思います。

### 業務について

入社してすぐに送迎担当に配属され、当初はそれまでの送迎の組み立てを踏襲しながら送迎表を作成していました。ご利用者の入れ替わりは頻繁にあり、その都度、表の見直しを行う必要があります。

前述のとおり、地域の事情からも高齢のご利用者は増加しており、介護依存度の高いご利用者の割合も高くなり、送迎の組み立ては次第に難しくなっています。

以下に、私が送迎の組み立てやドライバーとして送迎を実践するようになってから考えた「送迎に大切な3つの要素」について持論を述べさせていただきます。

### 安全な送迎

まず、送迎において最も重要とされることは「安全」で、あらためて言うまでもないでしょう。もちろん運

転に事故はつきものですし、どれだけ細心の注意を払っても事故に遭遇することはあります。全国のニュース等で、通所サービス事業所の送迎においてご利用者が亡くなる不幸な事故を目にすることがあります。当たり前のことですが、人様の命を預かっているという意識を強くもち、運転に臨まなければいけません。

送迎はこちらの予定どおりにはならないこともしばしばで、ご利用者の都合や、交通渋滞等で遅れることも多々あります。そのような場合、どうしても焦って運転も雑になってしまいがちですが、そんなときこそ落ち着いて、先方に遅くなる旨を電話連絡するなどの対応を徹底しています。

また、運転中だけでなく、ご利用者の車の乗降時にも細心の注意が必要です。身体的に不自由なご利用者が車に乗降する際、介助なしではリスクを伴います。十分な見守り、運転手の介助により、安心していただけるような配慮が必要です。車いすの方がリフターで乗降する場合も同様です。ご自宅から事業所まで一瞬も気を抜かない、それが通所リハビリにおける安全な送迎の在り方だと考えます。

ICTの活用として2023年度から、法人全体の送迎部門に運転アプリを導入しました。客観的に自身の運転データを確認することで、安全面や交通法規遵守への意識が格段に上がっていると感じています。

### 効率的な送迎

送迎の組み立てを行うようになって、効率面での配慮も重要な要素の1つだと考えるようになりました。単純に考えれば同じ地域のご利用者を順番に送迎すればよいのですが、そう簡単にはできないさまざまな事情があります。例えば、同じ曜日に隣家のご